

令和4年度学校経営計画

江田島市立江田島小学校

I ミッション

この江田島を愛し、明日の江田島を拓くために島から世界へ羽ばたく人材となるべく、必要な資質・能力を育成する。
そして、「江田島小学校こそ 誇れる我が母校」と言える学校になる。

II ビジョン

課題発見・解決力（思考力、表現力）、主体性と自己認識、協働する力（コミュニケーション力）を育てる
(1) 「確かな学力（思考する知）」「豊かな心（他を思う心）」「健やかな体（伸びようとする体）」がバランスよく育つ学校
(2) 児童の生きる「足場（生活力・気力）」が育つ学校
(3) 児童・保護者・地域から信頼され愛される（「行くのが楽しい」「通わせて安心」）学校

III 現状分析

「確かな学力」

・令和3年度江田島市学力調査より各教科平均正答率(着色セルは目標値に対して課題のあるもの)

	国語			算数			理科		
	知・技	思・判・表	主体的	知・技	思・判・表	主体的	知・技	思・判・表	主体的
1年	88.8	60.0	60.0	88.3	76.4	67.0			
2年	96.6	78.6	79.4	81.4	69.1	66.5			
3年	68.0	63.1	56.9	70.2	42.0	54.7	60.6	52.2	57.5
4年	64.1	53.9	48.3	70.6	50.3	44.4	66.4	49.7	57.6
5年	73.3	72.2	77.6	85.6	57.6	61.3	59.5	69.9	69.6
6年	54.6	57.5	53.0	72.0	51.7	42.5	58.7	51.4	54.1

- ・令和3年度は小学校低学年段階からの学ぶ喜びサポート校事業の指定を受け、個別最適な学びの実現に向け、つまずきのある児童への手立てを工夫し、協働的な学びの充実とともに取組を進めてきた。単元テストにおいて、令和2年度、国語科、算数科において16人であった60%未満の児童が、令和3年度には10人と減少し、取組の成果が表れている。また、江田島市学力調査においては、1, 2, 5年生で大きな国語科、算数科ともに昨年度を上回り成果が表れている。しかし、3, 4年生においては学力課題の大きい児童が多数おり、更なる取組が必要である。
- ・課題解決のために、必要な情報を選択し、比較・関係付けたりしながら思考・判断する力、課題解決に向け主体的に学習に取り組むことなどには依然課題がある。また、支援を必要とする児童への具体的かつ効果的な手立てを工夫し取組を進める必要がある。

「豊かな心」

- ・自己有用感を感じている児童は、全校で95%であった。
- ・不登校傾向の児童、いじめとして指導した児童、授業妨害等で特別な指導を行った児童など、生徒指導上の課題が残されている。
- ・児童の困り感を捉え、児童の自己肯定感や自己有用感を高め、夢や目標に向かって努力しようとする児童を育成しなければならない。

「健やかな体」

- ・進んで運動に親しむ児童82%、体力・運動能力調査において、令和元年度全国平均以上の種目数の割合は50%である。運動に親しむ態度を育て、課題のある体力への継続した取組が必要である。

「信頼に応える学校」

- ・令和3年度（1月調査）の保護者の学校満足度は、89%。学校に行くことを楽しみにしている児童は、92%。
- ・保護者や地域の方々の願いや思いを受け止め、個々の児童の実態をふまえた、事前対応や事後対応を組織的に行いながら、児童がよりよく成長する姿と教職員の実践を通して保護者、地域の理解を得ることが必要である。

「働き方改革」

- ・昨年度に比べ、教職員の時間外勤務は減少している。行事の厳選と業務の簡素化を進めているが、日課の工夫などとともに、組織として、個人として、業務の進め方の工夫が必要である。

自ら考え、ともに伸びようとする児童の育成

V 目標及び取組 ※太字は校区キャリア教育との関連

	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策
確かな学力	個別最適な学びを進め、主体的・協働的な学びの実現を通して、確かな学力を身に付けた児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学びを進め、児童が主体的・協働的に学ぶ授業改善を進める。※課題発見・解決 (全学年における、発達段階に応じた児童の主体的・協働的な学び授業づくり) 	<ul style="list-style-type: none"> 児童主体の授業スタイルを確立し、児童の学び合いを核とした授業づくりを進める。(考えるすべを生かして) 児童と教師のマインドセット改革に向けて、実践に関するアンケートを実施し、その変容を見取ること意識化を図る。 協働的な学びを工夫し、児童の表現力と思考力を高める。※表現力
		<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着を図る。 (江田島市学力調査全国平均以上) (単元テスト60%未満10人以下) 	<ul style="list-style-type: none"> つまづきのある児童への具体的な手立てを工夫する。 タブレットをツールとして、個別の学習進度に応じたドリルに繰り返し取り組ませる。 全学年で家庭学習の自主学習を設定し、児童自らが、課題と思う単元の学習を選択的に行わせる。 複数の単元の問題が1枚になっているドリルタイム用のプリントを用意し、取り組ませる。
豊かな心	自尊感情・自己有用感を高め、夢や目標に向かって自己実現を図ろうとする児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで行動することを通して、児童の自己肯定感や自己有用感を育成する。※自己理解 (自分のよさを理解し高めようとする児童95%以上) 自分の夢や目標をもち、実現に向かって努力する児童を育成する。※キャリアプランニング (目標の実現に向け努力する児童90%以上) 	<ul style="list-style-type: none"> 校内ボランティア活動を継続して実施する。 (清掃活動、あいさつ運動を中心に行わせるとともに、学校行事に合わせた内容を企画し、実施させる。玄関掲示や感謝状を渡すなど、児童の活動に対して価値付けを行う。) 体験活動を計画的に仕組んだり、ゲストティーチャー(地域、企業)を招いて話を聞いたりする教育活動を取り入れる。 (物事に対しての見方を広げさせるとともに他者の考え方や生き方に触れ、自己の生活について見直させる。)
健やかな体	自ら進んで運動に親しむ習慣を身に付け、体力の向上を図ろうとする児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで、運動に親しむ児童を育てる。 (進んで運動に親しむ児童85%以上) 体力向上と自己の目標に向けて、粘り強く取り組む児童を育てる。 (新体力テストにおける、国・県平均以上の児童55%以上6月) (新体力テストにおける課題種目が国・県平均以上の児童55%以上6月11月) 	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストの測定方法や、体育科の授業に関する校内研修を行う。 体育科の授業において、45分間中30分間の運動時間を確保するよう、学校全体で取り組む。 体育科の授業の初めにサーキットトレーニングを取り入れ、投力、走力改善を図る。 雨天時や長期休暇中等に運動メニュー「チャレンジ10」を活用する場を設定し、意欲的に取り組めるよう工夫する。(得点化等) 投力改善のため、ドッジボールを推奨する。
		<ul style="list-style-type: none"> 食と健康の大切さに気付かせ、より良い生活習慣の定着に向け自己管理できる実践力を育む。 (朝食を毎日食べた児童99%以上) (起床、就寝時刻の固定が7割できた児童80%以上) 	<ul style="list-style-type: none"> 生活リズム週間の実施に合わせて、睡眠と朝食の効果について学級指導を行う。 生活リズム週間に取り組んだ後の結果や感想、家庭で工夫していることを紹介するために、保健給食委員で掲示物を作成する。 生活リズムが定着しにくい児童に対しては、保護者と連携する。
信頼に応える学校	地域・保護者との協働による学校運営を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 児童、教職員の姿を通して、地域・保護者から信頼される教育活動を推進する。 (保護者の肯定的評価90%以上) 	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートや学校評価アンケートを計画的に実施し、児童、保護者の思いを受け止め、教育活動を推進する。 保護者との連携を密に行い、信頼関係を深めるとともに、報告・連絡・相談により、組織的な対応を行う。
働き方改革	働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 超過勤務を削減し、教職員が意欲をもって職務を行う、組織づくりを進める。 (超過勤務時間60時間以内の教職員80%以上) 	<ul style="list-style-type: none"> 退校時刻を意識した業務遂行を行う。 日課を工夫し、業務に向き合う時間を確保する。 業務改善の工夫を出し合い、組織、個人内の業務の効率化を図る。

